



八尾正文譯

第五章注解



114
A 4716
2 主



第五章注解

天正十一年四月
天候爵邸寄贈

書ニ曰ク凡ソ地ヨリ産スル所ノ萬種ノ

富ヲ六府ト謂フト乃チ水火金木土穀ハ

皆ナ地ニ産シ而シテ能ク邦國ヲ富シ人

民ニ益スルモ亦皆ナ之レニ由ル故ニ之

レヲ六府ト謂フナリ
譯者案スルニ書ノ大禹謨ニ曰ク水火

金木土穀惟レ修ルト又禹貢ニ曰ク六府

孔修ルト恐ラクハ此等ノ語ヲ引用スル

二 頃日佛國人ノ測量スル所ニ據レハ日本

島ハ四千〇三十一平方里九州島ハ六百

飛騨集

大藏省

八十六平方里四國島、三百九拾一平方里ニシテ緯度十五度間ニ跨ルモノナリ
 今此三島ノ地坪ヲ算スルニ海陸ノ里程等ヲ併セテ左ノ表ニ於テ詳明ニ區分セリ但シ之レヲ本書ニ比較スルニ其算數ノ差異アル所以ンハ數種ノ測量圖ヲ改更スルニ當リ其小數ヲ截捨スルニ由テナリ

日本	平方里	陸里	海里	陸里ニ就テノ町	海里ニ就テノ町
四、〇三一		八五、二九五、九六	六四、四九六	三三、〇一六、五、九二	二二、〇四、〇五五

九州	四國	合計
六八八	三九一	五一一〇
一四、五五八、八	八、二七三、五六	一八、一二七、六〇
一一、〇〇八	六、二五六	八一、七六〇
二七、五七六、五、二	一、三三五、五、八四	二七、九、三、三五、四
三七、六三、一〇一	二、一三八、六、二、三	二七、九四九、七、七、九

右日本九州四國三島地坪ノ計算ニ於テ其精密ヲ得ルヤ否ヤヲ明瞭ニセンカ為メニ余ハ米利堅ノ測量師「エドブリユウ」ニツア「ンク」ニ謀リ而メ日本人并ニ外國人ノ編述セシ所ノ地圖及ヒ海圖ノ最モ近ク世ニ發行ヤシモノ及ヒ未タ發行ヤサルモノニ就テ先ツ四國ノ地圖ヲ作ラ

ノナリ則チ爰ニ附スル同氏ノ作リタル地圖中ニハ凡ソ五千四百七拾二ノ方形ヲ包有ス其方形ハ各々緯度六十分一ヲ以テ一里ト算ス(六千〇七十六フ井一ト一寸八分ヲ含有スル海上里ナリ)抑モ茲ニ海上里ニ代用スル所ノ里程ハ殆ト正鵠ヲ得ルモノ、如シ何トナレハ北斗ト赤道間ノ距離ヲ稍々平均セシモノナレバナリ蓋シ北斗ニ於テハ一海上至六千百〇セフ井一ト餘赤道ニ於テハ六千

〇四十六フ井一トニ當ル故ニ之レヲ平均スレハ六千〇七十六フ井一ト五ナリ然レモ當時計算上ニ於テ用ユル所ノ距離ハ六千〇七十六フ井一ト一寸八分ナリ何トナレハ一海上里ハ佛蘭西國ノ千八百五十一メートル九八七、其一メートルハ三フ井一ト貳八〇八九ニニ當ル故ニ一海上里ノ割合ヲ以テ之レヲ算スレハ則チ六千〇七十六フ井一ト一七九三八五、一一貳トナルヲ以テナリ

儲大藏省ノ表ニ據レ、一丁ハ拾萬〇八
 千平方フ井トヲ保有ス故ニ海上里ヲ
 算スルニ丁數ヲ以テスレハ四國及ヒ淡
 路ヲ合セテ一百八拾七萬六千七百〇六
 丁ナリ而メ此丁數ノ内子午線集合ノ差
 ノ為メニ一萬四千貳百八拾貳丁ヲ省減
 スレハ則チ一百八拾六萬貳千四百貳拾
 四丁トナル乃チウンツアング氏ノ編成
 スル談二島ノ地坪ノ計算ハ殆ント確實
 ヲ得タルモノトス

佛人ノ計算ニ據レハ該島(四國)地坪ノ總
 計貳百拾貳萬八千六百貳拾三丁ナリ是
 レヲウンツアング氏ノ編成スル所ノ者
 ニ比スルニ其過數貳拾七萬六千九拾
 九丁アリ然リト虽此差ノ起ル所ヲ辨
 明スル難カラス則チウンツアング氏ハ
 其測量スルニ當ツテ四國及ヒ淡路ノ海
 邊ニ所在ノ數小島ヲ以テ之レヲ算外ニ
 置ケリ佛人ハ其數小島固ヨリ四國ノ稱
 号中屬スルヲ以テ之レヲ其測量域中

ニ編ハセリ余ハ此想像ノ極メテ確實ナ
 ルヲ信ス是レ他ナシ其「ウ」ンツア「ン」ク氏
 ノ測量スル所ト余ガ測量スル所ノモノ
 ト殆ント相同フシテ其間纔カニ八千百
 八拾七丁ノ差アル而已ナルヲ以テテリ
 海岸ノ土地ノ如キハ其方形ノ小差ニ就
 テ悉密ニ測量スルヲ緊要ト考思セス是
 レ前条小差ノ由テ生スル所ニシテ且避
 ク可カラサルモノナリ何トナレハ我輩
 測量ヲナスノ定規ト^{ナス}原圖ノ如キハ數區

ノ測量圖ニシテ多少ノ不全ナキ能ハサ
 レハナリ而シテ多少不全ナル數區ノ別圖
 ニ就キ綯繆配合シテ以テ之レヲ測量セ
 リ故ニ大ニ注意シ且ツ精密ヲ究メタル
 ヲ以テ右ニ載スル地坪槩算ノ外別ニカ
 ノ尽ス可キナシ然レモ是レ唯粗糲ノ概
 算ニシテ全帝國^{蝦夷地ヲ除ク}蓋シ開拓
 使ノ測量ニ據レハ該地ハ四拾万〇八千
 四百四拾丁ヲ抱有スノ總地坪ニ付テ佛
 人ノ計算カ適正ナルカ否ヲ決定センヲ

昔トニリ然リ而メ全帝國ノ精細ナル測量圖ヲ新タニ編成スルニ及フマラハ姑ク余カ測量槩算ヲ以テ全整セルモノト信スルナリ

三 アルロースミツ」氏編成ノ地圖ニ據ルハ

大貌利顛ヲ三大區別シ其各一大區分中既耕地及ヒ未耕地ノ坪数ヲ包括スルコ

ト左ノ表ノ如シ

一里平方總坪	スタチユートア クルス(我四反)	耕地及ヒ 牧場	耕地及ヒ牧 場トナルヘキ 未墾地	不毛地	耕地及牧場	耕地及ヒ牧場 耕地及ヒ牧 場トナルヘキ未墾地
十八坪全平方 總地坪		牧場	未墾地	割合	總地坪ノ 割合	地總地坪ノ 割合
						坪ノ割合

イギリス	五〇、五三五	三、三三二、四〇〇	二五、六三三、〇〇〇	三、四五四、〇〇〇	三、二五六、四〇〇	
ウエールス	七、四二五	四、七五二、〇〇〇	三、二七、〇〇〇	五三、〇〇〇	一、一〇五、四〇〇	
總計	五七、九六〇	三七、〇九四、〇〇〇	二八、九〇〇、〇〇〇	三、九八四、〇〇〇	四、三六、四〇〇	七七半
						一〇、ト四分ノ三
						二、ト四分ノ三

スコットランド

エクス平方總坪	耕地	未耕地	耕地總地坪	未耕地總地	千八百十年	千八百十年	スコットランド 貨幣ヲ以テ 算スル借也
一八九四、〇〇〇	五、〇四三、四五〇	一三、九〇〇、五五〇	二六半	七三半	四八五、一四〇、四	五七、リクマン、 半	
			割合	坪ノ割合	仮定借地 料	毎一アクリ止平 均借地料	貸幣ヲ以テ 算スル借也 料ノ價

右總地坪中耕地一小部分ノ内殆ント一半即チ貳百四拾八萬九千七百貳拾五アクル」ハ牧草ヲ生スル為メノ地ナリ左ノ表貌利顛帝國ノ牧産

記者曰此表、意式
解、難シト思フ原文
ニ倣フテ譯馬ス

表五十三葉一在リハ諸物産耕耘地味ノ區別及
ヒ其成熟刈込ノ数量價額等ヲ詳明ニス

物産	アクルス(坪数)	毎一アクルノ所産	ニルリシク	價磅
麥	二二〇、〇〇〇	六六〇、〇〇〇	五〇	一、六五〇、〇〇〇
大麥	二八〇、〇〇〇	九八〇、〇〇〇	三〇	一、四一〇、〇〇〇
燕麥	一、二七五、〇〇〇	五、七三七、〇〇〇	二五	七、七七一、八七五
豆并豌豆	一〇〇、〇〇〇			
馬鈴薯	一三〇、〇〇〇			
蕪菁	三五〇、〇〇〇			二、五二〇、〇〇〇
麻	一六、〇〇〇			二、五二〇、〇〇〇
菜園	三二、〇〇〇			一、一八〇、〇〇〇

閑田	一五〇、〇〇〇	四、一六〇、〇〇〇
總計	二、五五三、〇〇〇	一三、三五五、八七五

右ハ實地耕耘スル所ノ地坪平均數并ニ地價ナ
リ然レ氏牧場中耕耘シ得ヘキノ地價ハ一般ノ
報告ニ照シテ計算スレハ每一「アクル」ニ三磅ナ
リ是ニ由テ之レヲ觀レハ牧場貳百四拾八萬九
千七百貳拾五「アクル」地ニ産スル所ノ價額ハ四百
九拾七萬九千四百五十磅ナリ然ルト虽氏尚此
他山邊ノ牧場荒蕪地、プランテーション等一千
四百萬「アクル」ノ地アリ之レヲ平均シ每一「アク

飛騨縣 大藏省

ル三「シ」ルヤング」ノ借地料ヲ得ハ其價格貳百拾萬磅ナリ○「スコットランド」ノ一般報告ニ據ルニ森林地坪ノ總額ハ九拾壹万三千六百三拾六「ア」クルト云フ其内五拾萬〇一千四百六十九「ア」クルハ自然生ノ森林ニシテ四拾壹萬貳百貳拾六「ア」ノルハ栽植森林ナリ但シ栽植森林ノ地坪總額ハ近年大ニ増加シ現今ニ至テハ九拾五萬「ア」クルヨリ下ラスト云フ故ニ「スコットランド」ノ土地所産ノ總計ハ左ノ如シ

穀物及菜園ノ獲収 一千三百三拾五萬五千七拾五磅
毎「ア」クル借地料十「ア」クル

牧場ノ得益

四百九十七萬九千四百五十磅

山邊牧場ノ得益

貳百拾萬磅

毎「ア」クル借地料一「ア」クル

合計貳千〇四拾三萬五千三百貳拾五磅

「アイルランド」

一八百三十二年毎「ア」クルノ計算表

耕地	未耕地	湖水	總計	耕地ノ割合	山嶽沼地ノ割合	湖水割合
一四六、三、四一五	五四四、〇七三	四五五、三九九	二、〇九九、九〇〇	七一、半	二六、半	二、四分一

大貌利顛物産表

貳百三拾九葉第一卷

五 「テロング」氏ノ日本旅行日記ハ其載スル

所ノ地甚タ廣シ○「ウ」ンツアング」氏ハ特

一東京ノ西北ニ方ノ諸地ノ形情ヲ述
 リ而シヨリシス氏ハ東京ニ接近スル
 縣地ノ形勢ヲ詳密ニ検査シ加フルニ客
 歳ノ夏羈旅ノ際經歷スル所ノ南方諸州
 ノ情形ニ就テ見聞スル所ヲ集記スレモ
 ノ甚タ多シ

○六

東京ヲ距ルコト遠キニ至レハ黒潮ノ温
 度百度中ノ二十四度ナリ即チ其温度ノ
 動カサル水及ヒ仮令ハ其海岸ヲナスト
 云フノ水ヨリ高キ一凡ソ六七度ナリ
 クレ

リ一氏著述ノヲテル名書○スコットラン
 第二卷百〇五葉ヲ看ヨ

トノ地位タルヤ其氣候風土ハ「カムシヤ
 ツカ」ノ地ト同ク寒氣嚴酷ナルモノナリ
 然レハ黒潮ノ感動ニ依リテ其氣候特ニ
 「カムシヤスカ」ト相異ナルモノノ則チ日
 本ノ海岸即チ西部海岸ニ沿フテ流レ
 所ノ「ゴルフストリー」ハ領分中ニ黒潮ノ
 感動スルアリテ同ク特殊ノ氣候ヲ見ル
 カ如キナリ此他ノ諸國ニ於テ亦同シ
 (志詳ハモーリース氏ノ海理書及ヒ「イ

クリュス氏著「テ」名書ニ就テ見ルヘ
 頃日合衆國ノ版圖ニ入ル所ノ「アラスカ」
 州ノ如キハ若シ斯ノ如キ特殊ノ氣候ヲ
 日本ニ與フルカ如キ黒潮（温流）ノ在ル有
 ルニ非レハ四時寒風息マス田野不生ニ
 属スルノ地ナル可シ「プロフェツソレ」
 ウィトソン氏曰ク「日本國ニ存在スル所ノ
 温流ノ支派ニ由テ其温水我亞米利加ノ
 海岸ニ流通ス是レ亞米利加全海岸ヲシ
 テ日本ト同一ナル高度ノ熱線ニ居ラシ

ムル所以ナリ○驗温器昇降割合ノ記表
 ニ因テ其實ヲ明カニス而メ同州ノ本草
 學及ヒ人類學ニ徴スレハ其實益明瞭ナ
 リ○アラスカ半島ノ南部全海岸ノ氣候
 ハ「カチヤツク」島ニ於テ高温度ヲ保有ス
 ル所ノ水ニ根因セリ是ヨリ西方ニ至レ
 ハ漸ク緯度ハ縮ムト虽氏漸ク温度ハ減
 スルナリ千八百六十九年「ワシントン」府
 活版局「チヨルダグウ」氏著「合衆
 國海岸測量中太平洋海岸」
 アラスカ海岸

案内ノ部ヲ見ヨ

七

是等ノ畜類ヲ養飼スルノ益牧羊ニ勝ル
 所以ハ他ナシ其地村落ニ遠ク且牧羊
 便ナラス殊ニ峻嶮ナル山嶽峯嶺ト雖
 其畜類ヲ養飼スルヲ得レハナリ況
 爰ニ一兩種ヲ放テ養ヘハ則テ無用ノ地
 區忽チ有益良地ニ化シ峻山高峯モ一
 ノ繁榮ヲ組織スルノ部中ニ入ル可キナ
 リ千八百七十四年六月二十八日記載ノ
 「ヂョーンス」氏外務卿閣下ニ呈スル報告

八

ヲ見ヨ

イモトナスノ原、オワシ原、子ノ原其他諸
 原野ニ関スルノ事ハ「ヂョーンス」氏ヨリ
 大隈重信閣下ニ呈スル報告ヲ見ヨ

九

此圖ハ日本荒蕪地百分中ノ四拾七ヲ每
 一反ノ價壹圓其残り五十三ヲ每一反ノ
 價壹圓九拾錢ト仮定シタル計算ナリ故
 ニ此兩價ヲ平均スレハ每一反ノ價壹圓
 四拾七錢七厘即チ每一丁拾四圓七拾七
 錢トナルナリ

十

日本ノ古法ニ據レ、農夫一日八時間其
 勞業ニ就クモノトシ地ヲ穿ツ、深サ或
 ハ四「¹」₁インチ或ハ五「¹」₁インチニシテ三十拾五
 坪ヲ鑿ツ「¹」₁ヲ得ヘシ故ニ一千貳百拾坪
 即チ一「¹」₁ア「¹」₁クル「¹」₁ヲ鑿ツニ於テハ三十四日
 半ノ勞業ヲ要ス其賃錢ヲ算スルニ一日
 貳拾錢ノ額ヲ以テスレハ總計六圓九拾
 錢トナル然ルニ今三頭ノ馬ヲ使用スレ
 ハ一人ニシテ一日五反ヲ耕鋤スルヲ得
 其費用ハ左ノ如シ

壹八ノ賃金

貳拾錢

馬飼料

六拾錢

但一頭貳拾錢

耕具損料

貳拾錢

合壹圓

此費用ヲ壹反即チ三百坪ニ配合スレハ
 貳拾錢トナル是ニ由テ之ヲ觀レハ人手
 ヲ以テ一坪ヲ耕助スルノ價壹錢七厘五
 毛ナリ然ルニ之レニ代フルニ馬ヲ以テ
 スレハ每一坪七厘以下ノ費用ノ
 (トシス氏ノ報知ニ據ル)

十一

第七章中ニ於テ詳密ニ解明スヘシ

十二

此百分ノ六ノ圖ハ大藏省ヨリ授ケル所
 ノモノナリ而メ百分ノ二、六五ナルモノ
 ハ土地所産ノ総額百分ノ十一、六五中ヨ
 リ産者ノ所得百分ノ六ト租税百分ノ三
 トヲ引去リタル殘餘ノ数ナリ右ハ諸物
 産々出ノ地ヲ混合シテ平均スル所ノ計
 算ナリ獨リ米田ハ百分ノ十一、七七ノ所
 産アリテ其所産入費ハ地價ノ百分ノ二、
 七七ヲ要ス而メ雜物ノ産地ハ百分ノ十

一、一九ノ所産アリテ其所産入費ハ三、二
 九ヲ要ス

十三

千八百四十六年マテ佛蘭西ノ地税ハ所
 産歳入ノ一割五分ナリシト余ハ信スル
 ナリ

十四

大藏省ハ各區ノ耕地ニ就テ丁寧ニ測量
 シテ其實地ノ價ヲ計算シテ以テ之レニ
 租税ヲ課スルナリ○日本ノ地價概算ノ
 コトニ付キ政府ニ隸属シテ其職ヲ奉セ
 申ル人ノ報告セシコトアリ余今爰ニ報

告スルニ當テ敢テ完ク無益ニ属スルモ
 ノト思ハサルナリ借印幡湖傍ノ住人ニ
 シテ其價五千圓ノ土地貳拾五アクル即
 チ百反ヲ有スル有識ノ一農夫アリ「シヨ
 ーンス」氏ニ語テ曰ク余農業ヲ勤ムルニ
 其財本ノ所得百分ノ六ナリト然ルニ此
 金額以テ最モ確實ノ抵當物ヲ受テ人ニ
 借セハ百分十ノ益ヲ得ハシト○「ジヤケ
 ット」氏ノ概算ニ因レハ米田壹反ノ地ハ
 毎歳ノ平均利益四圓拾錢即チ每一万四

拾壹圓ナリ大藏省ノ概算ハ每壹反三四
 拾九錢即チ每壹丁三拾壹圓ナリ之レヲ
 要スルニ右兩槩算ニ於テ其差違ノ由テ
 生スル所以ヲ推究スルニ「シヤケット」氏
 其所産ヲ概算スルノ際土地ノ肥瘠等ヲ
 記載スルカ如キ百般要用ナル報告書類
 ニ乏シク唯一區ノ田地ヲ取テ直ニ算ヲ
 起スモノナリ而シテ大藏省ノ概算ハ則
 チ否ラス是レ其全局ヲ取テ之レヲ算ス
 ルヲ以テ其查察ノ廣ク且密ナルニ由レ

り然リト虽其差違ハ特々百分ノ一、七
 二而已殊ニ前述ノ事情ヲ酌量スレハ亦
 甚タ過大ナル差違ト云ヘカラス○大藏
 省ノ察算ハ彼ノ有識ナル農夫ノ報スル
 所ト大ニ符合スルヲ以テ其誤リナキヤ
 明白ナリ而カモ其農夫ノ報告アルヲ以
 テ尚一層ノ証明ヲ加フ

十五

牧場ト為スヲ得ヘキ荒蕪地ノ比例ニ就
 テ之レヲ「スコットランド」ニ徴スルニ能ハ
 サレト之レヲ英國ニ徴スルニ(四拾五葉

ノ注解ヲ見ヨ)百分ノ十一、四分ノ三ナリ

コレニ因テ觀レハ英國耕地ノ比例ハ百
 分中ノ七七半ニシテ日本ノ耕地ハ百分
 ノ五ニナリ而シテ英國ノ荒蕪地中牧場ト
 ナルヘキモノハ百分中ノ十ト四分ノ三
 ナリ之レカ比例ヲ以テセハ日本ノ荒蕪
 地中牧場トナルヘキモノハ百分中幾何
 答曰ク七、四分ノ三ナリ

十六

「スコットランド」國ニ於テハ未耕地、牧場、森
 林、及ヒ不毛地等ヲ包括セル一千三百九

拾萬五百アクルス即チ山地五百六拾四
 萬八千三百拾四丁ノ歲入所産ハ貳百拾
 萬磅即チ大約日本ノ一千萬圓ナリ但シ
 每壹丁壹圓七拾七錢ニ直ル此比例ヲ以
 テ日本ノ山地壹千三百〇九萬〇五百六
 拾丁ヲ算スレハ每歲貳千三百拾萬貳百
 九拾壹圓貳拾錢ノ所産ヲ得ン右ノ金額
 ヲシテ姑ク地價百分ノ六ト見做サハ地
 價總計ハ則チ三億八千六百拾七萬千五
 百貳拾圓ナリ而ノ官ニ納ル、所ノ租其

地價百分ノ三ヲ以テ則トスレハ壹千百
 五十八萬五千百四拾五圓六拾錢トナリ
 或ヒハ之レヲ總所産額ノ一割五分トナ
 スニ於テハ其金額三百四拾七萬五千五
 百四拾三圓トナルナリ

○十七

牧場中所産ノ額ヲ定ムルニ兩個ノ方法
 アリ一ハ其諸産物ノ本質ト價直トヲ仮
 定スルニ由リ一ハ一般ノ地味ヲ平均ス
 ル槩算ノ價額ニ由ルナリ蓋シ日本現今
 ノ情勢ヲ窺フニ甲法ヲ用ヒテ實地ニ奉

功アルヲ省ス故ニ我輩ハ寧ロ乙法ヲ採
 ルヲ以テ可トナス然レモ甲法ヲ採ルヲ
 以テ適當ト做スノ地位ニ至ラハ其乙法
 ニ勝ルヲ數層ノ整良ヲ加フヘシ○英國
 ノ草野(荒蕪地ニ非ス)ノ所産ヲ槩算スル
 ニ左ノ如シ

牛 百萬頭 一頭貳拾磅 貳千萬磅

犢 貳拾萬頭 仝 三磅 六拾萬磅

羊及羊仔 六百八拾萬頭 仝 壹磅拾ヒルリシク 一千〇貳拾萬磅

羊毛 (屠リタニ
羊ヲ除ク) 三十三萬八千俵 一俵拾貳磅 四百〇五萬六千磅

豕 四拾五萬頭 一頭壹磅十ヒリシク 六拾六萬五千磅

馬 貳拾萬頭 三百萬磅

家禽 (雞、鶩、家鴨
等) 卵、兔類 百萬磅

牧馬草 千萬磅

日々ノ所産 (牛汁、牛酪、乾酪) 九百九拾萬九千磅

合 五千四百五拾萬磅

大 第四章ヲ參者スヘシ
 十九 是レハ一千八百七十年五月ニ於テ槩算
 セシ合衆國ノ地坪ナリ但シ一百年期進

歩^ス第一卷百〇一葉ヲ照會セヨ

二 大藏省ヨリ授與シタル報告及ヒ公ケノ

統計表ニ因テ之レヲ見ルニ日本及ヒ合

衆國ノ人口區別左ノ如シ

		日本			
職業	男	女	總計	職業	男
農	八、三三九、九五	七、一八〇、四二九	一、五三二、〇三九	農	八、三三九、九五
諸職	一、四一五、〇七三	九、六六三、三	二、三五一、七〇六	諸職	一、四一五、〇七三
商漢	八三〇、七二八	四六、一九〇	一、二九二、六二八	商漢	八三〇、七二八
工 ^及 藝 ^及 鑛業	五、三三九、一三	一、五五〇、五一	六、八八九、六四	工 ^及 藝 ^及 鑛業	五、三三九、一三
無業	五、九七二、〇二一	七、六八〇、八八七	一、三六五、二九八	無業	五、九七二、〇二一
總計	一、六八九、七〇〇	一、六四一、四九〇	三、三三〇、六六〇	總計	一、六八九、七〇〇
合衆國					
職業	男	女	總計	職業	男
農	八、三三九、九五	七、一八〇、四二九	一、五三二、〇三九	農	八、三三九、九五
諸職	一、四一五、〇七三	九、六六三、三	二、三五一、七〇六	諸職	一、四一五、〇七三
商漢	八三〇、七二八	四六、一九〇	一、二九二、六二八	商漢	八三〇、七二八
工 ^及 藝 ^及 鑛業	五、三三九、一三	一、五五〇、五一	六、八八九、六四	工 ^及 藝 ^及 鑛業	五、三三九、一三
無業	五、九七二、〇二一	七、六八〇、八八七	一、三六五、二九八	無業	五、九七二、〇二一
總計	一、六八九、七〇〇	一、六四一、四九〇	三、三三〇、六六〇	總計	一、六八九、七〇〇

農	五五二五五〇三	三九六九六八	五九二二五七一
諸職	一六一八二二	一〇六、六七二	二六八四七九三
商漢	一七二、五四〇	一八、六九八	二九二二三八
工業及 鑛業	二、三五、四七一	二、五三、四五〇	二、七〇、七四二
十歳以 下無業			一〇、三九、五〇五
十歳以上 算外貧			一五、七二、九四三
總計	一千八百七十四年ノ人口	三八五、五八七	

右ノ表ニ因テ見レハ合衆國ニ於テ十歳以上ノ平均人口二千八百二十八百八千九百四十五人ナリ其中諸職業ニ従事ス

ルモノハ特リ一千二百五十万五千九百二十三人ナリ而シテ千八百七十年合衆國ノ人口報告中ニ其一千二百五十万五千九百二十三人ヲ除クノ外ハ特リ婦女及ヒ十六歳以下ノ小兒ナルヲ示セリ然リト虽レ日本ニ於テ諸科従業ノ人員報告ニハ右ノ表ニ著ハスカ如ク男女小兒等ヲ混淆シテ之レヲ計算セリ故ニ算外員數一千五百七十二万二千九百四十三人ノ内及ヒ十歳以下ノ小兒一千〇五十

二万九千五百〇五人、内幾何部カ農
 業人口中ニ属スル者ヲ察算セサル可ラ
 ス則チ我輩ノ臆算スル所ハ算外人負一
 千五百七十二万二千九百四十三人中七
 百四十四万五千九百六十五人及ヒ十歳
 未滿ノ幼稚一千。三十二万九千五百。五人中四百
 八十九万千七百七十人カ農業人口ニ属ス
 バシ之レヲ表中ニ示ス處ノ農業人口五
 百九十二万二千五百七十一人ニ加算スレ
 ハ合計一千八百二十六万。二百十三人ト

ナル此計算ハ合衆國ノ實地農業ニ属ス
 ル所ノ人口ナル可キヲ余ハ考察ス而メ
 今画米利加ノ農夫ト日本ノ農夫トヲ比
 較シ其豊富ト其所産ノカトニ就テ余カ
 其平均ヲ採ルモノハ其合計人口上ニ原
 ケリ然レモ余輩ハ此一千八百二十六万
 〇二百十三人中ニハ農業ノ労カニ堪ハ
 ス又其衣食ヲ消費スル甚タ僅少ナル小
 児及ヒ假令農業人口中ニ算入フルモ其
 労カノ一部ヲ負擔セザル婦女ヲ包括ス

ル一ヲ記臆セザル可ラズ實ニ婦女子ノ
 如キハ或ハ自ラ農業ニ從事セズノ活計
 ヲ為ス所ノ富者往々之レアルヲ以テ日
 本人口表中ニ著ス所ノ無業者ト同類ニ
 屬シテ其適當ヲ得ルト云フ可シ然リト
 虽モ如何セン之レカ計算ヲ為スノ原記
 ナキヲ以テ其数ヲ量ルヲ得サルコトヲ
 故ニ此計算ノ如キハ姑ク舍テ問ハサル
 ハシ然リ而シテ一千八百二十六万〇二百
 十三人ヲ以テ基本トナストキハ仮令其

結果ハ如何ナルモ日本ニ利アリテ合衆
 國ニ利アラサ^ルラ了解スルニ至ルハシ

二五

一丁ノ地ヲ耕耘シテ適宜ノ收穫ヲ得
 ニハ百五十日ノ勞カト年々五圓價ノ肥
 料ヲ要ス是レニ因テ之ヲ觀レハ果シテ
 余カ七十八葉注解第五十六ニ示スカ如
 ク一丁ノ收穫所産ノ價ヲ拾四圓七拾貳
 弍トナシ肥料代五四ヲ引去リ其餘剩九
 圓七拾貳弍ヲ以テ百五十日ノ勞カニ報
 ユ去レハ米作夫一日ノ勞カハ唯僅カニ

六 芟 四 厘 八 毛 以 下 = 直 ル ノ ミ 是 レ 一 日
ノ 活 計 上 足 レ リ ト 做 ス ハ カ ラ 然 リ ト
虽 氏 或 人 言 フ ア リ 農 夫 タ ル モ ノ 其 日 給
ノ 外 尚 其 所 産 上 ノ 益 百 分 ノ 六 ラ 得 ル ト
夫 レ 然 リ 豈 夫 レ 然 ラ ン ヤ 是 レ 大 ナ ル 誤
説 = シ = シ テ 一 日 ノ 勞 力 = 報 フ ル ニ 六
芟 四 厘 八 毛 ラ 以 テ 足 レ リ ト 辨 駁 シ 得 ル
ノ 論 = 非 ス 何 ト ナ レ ハ 其 百 分 ノ 六 ナ ル
モ ノ ハ 農 家 營 業 ノ 資 本 = 報 エ ル ノ 借 料
ニ シ テ 而 ヲ 一 日 ノ 賃 銀 六 芟 四 厘 八 毛 ハ

唯 其 熟 練 ト 勞 力 ト = 報 フ ル モ ノ ナ レ ハ
ナ リ 故 = 百 分 ノ 六 ラ 得 ル 所 ノ 人 身 自 ニ
其 熟 練 ト 勞 力 ト ラ 施 サ ス シ テ 彼 ノ 六 芟
四 厘 八 毛 ラ モ 併 取 ス ル ノ 理 ア リ ト 云 フ
丁 能 ハ サ ル ナ リ 曾 テ ヤ 一 氏 ガ 國 ノ 富 ハ
之 レ ラ 作 リ 之 ラ 分 チ 之 ラ 消 ス ル ト 云 フ
ノ 論 説 ヲ 作 リ テ 曰 ヲ 茲 ニ 一 起 業 者 ア リ
テ 其 業 = 要 ス ル 財 本 ラ 他 ヨ リ 借 用 ス ル
モ 或 ハ 自 ラ 之 レ ラ 所 有 ス ル ラ 以 テ 他 ニ
之 レ ラ 仰 カ サ ル モ 總 テ 他 日 其 業 ヨ リ 産

生スル所ノ物品ヲ賣却スルニ際シ其才
 能ト勤勞トノ報酬タルハキ利益ノ外ニ
 尚若干ノ利潤財本ノ利息ニ當ツバキモヲ得ハキモ
 ノナリ又茲ニ一財主アリテ其財本ヲ他
 ニ貸与シ而メ其得ル所ノ利息ハ即チ予
 輩ハ此財主カ有益ノ事ニ使用セル財本
 ヨリ利益ヲ生セシメタルノ徴証ナリト
 ス今若シ一工業ヲ營ミ他日其産物ヲ賣
 却スルニ當リ其代價中ニハ其使用セル
 財本ノ利息ヲ贖フハキ利潤ノナキキハ

誰カ引續キ其業ヲ營ミ常ニ此利息ヲ拂
 出ストヲ為サン而シテ其起業者カ自ラ
 此財本ノ所有者ニシテ之ヲ使用スル片
 ハ常ニ其勤勞ノ報酬タルハキ利益ノ外
 ニハ毫モ得ル所勿カルハシ然ル片ハ此
 起業者ハ其業ヲ廢棄シ唯其財本ヲ他ニ
 貸與シテ其利息ヲ得ルトヲ可トシ而メ
 其才能ト熟練トヲ他ニ使用シ以テ其報
 酬ヲ得ントスルヤ必然タリ

トムソシ兵著述ノ交際及ヒ經國論中奴

隸勞役ノ事ヲ論及ス曰ク凡ソ往昔勞業
 ニ從事スル者ハ尽ク奴隸ナリ然レモ奴
 隸勞役ハ仮令賃價全ク無キモ尚^ホ之レヲ
 見テ不廉トナスト「ホームル」氏曰ク人ヲ
 シテ一日奴隸タラシメハ輒チ其人ノ半
 價ヲ省減スト中古歐州奴隸ノ事ヲ載ス
 ル青史上亦之レニ類似スルノ説アリト
 ムソ^ン氏曰ク奴隸ヲ以テ勞役ニ着カシ
 ノハ仮令ハ全國人口ノ糧食ヲ産ルニ其
 人口中只一小部分ノ勞力ヲ施シテ足ル

へキモ全國人口尽ク耕耘ノ業ニ着クニ
 非サレハ能ハス而メ牛豕ヲ牧畜スルモ
 亦多數ノ人負ヲ使役セサル可ラスト「ト
 ムソ^ン」氏著述ノ交際説并經國論中一百
 三拾六葉ヲ見ヨ
 「^ト」ヨ^ンス」氏該事件ニ付曾テ大久保利通
 閣下ニ呈スル報告書中ニ於テ「^ト」ヨ^ンソ
 ン」氏ノ著述書中ニ在ル該記者ノ説ヲ引
 用セリ
 千八百七十五年一月一日ヲ以テ滿期ニ

至ル勸業寮羊一件ニ付大久保利通閣下
ニ呈スルジョンス氏ノ報告書ヲ照會ス
ベシ

二十五

ジョーンス氏ノ報告ヲ見ヨ

二十六

斯ノ如クスレハ日本全國農業ノ所産ハ
古法ニ依テ産スル所ノ拾壹圓四拾四錢
ハ進シテ百三拾七弗八拾五セントヲ獲
ルニ至ル可シ而シテ産物愈々増加スルニ
至レハ國ノ富モ亦隨テ期スヘキナリ加
之ナラス其産物増加スルニ及ンテ内國

ノ消費ニ剩ル所ノモノハ乃チ諸ノ工業
ニ就クモノヲシテ續々振起セシムルノ
具トナリ漸ク社會ノ四肢五臟整然タル
ノ壯觀ヲ得ルニ必須ナル各業ノ平均ヲ
得ルニ至ルヘシ社會ヲシテ此変遷ニ導
キ此果實ヲ結ハシメシニハ余カ第四章
ニ述フル所ノ法案ノ如クセハ豈ニ甚タ
難キニ非サル可シ又余カ同章ノ注解第
三拾号ニ説クカ如キハ方今ノ經濟家ノ
發明ト名ヲケラルハ乎ハ知ラサレド

レ惟支那古聖ノ訓誡ヲ詳密ニ辨解セシ
ニ過キササル而已書ニ曰ク同時ニ於テ百

業ノ完備ヲ齊整定立セヨト
譯者案スルニ書ノ堯典

ニ曰ク允ニ登ニ百ニ五ニ庶績成熙ト恐

二十七

是等良好ノ結果ヲ得ルニハ果然良好ノ

方法ヲ選ミ且ツ第四章ニ解示スル所ノ

經國ノ本源ニ基キ實地ニ經驗スルニ若

クハナシ而メ該事ニ注意ヲ要セシカ為

メ再ヒ方今ノ經濟論ノ原由ト書經ニ載

スル所ノ支那聖賢ノ語トノ間ニ成出ス

ル關係ニ就テ敢テ爰ニ明解ス

「ケレトユースコレシ」ニ曰ク

第一「水火金木土ヲシテ五穀ト能ク次序

ヲ乱サシムル「勿レ」ト此意ヤ水ハ火ニ

勝テ火ハ金ニ勝テ金ハ木ニ勝テ木ハ土

ニ勝ツ而メ能ク食物ヲ産スルノ義ナリ

譯者案スルニ書大禹謨ニ曰ク水火金木
土穀惟修ルト其集註ニ曰ク水克火火克

金ト蓋此語ヲ引クナラシ

第二「緊要ノ物貨ヲ増加セヨ」ト此意ヤ工

諸器具ヲ製作シ商ハ物ヲ以テ貨幣ニ

交易シ而シ人民ノ職業ヲ盛大ニスルノ
義ナリ

第三「人ノ起居ヲシテ益々安カラシメヨ」
ト此意ヤ人民ヲシテ身軀ヲ被フニ布帛
ヲ以テシ口腹ニ養フニ美肉ヲ以テセシ
メ人生ノ幸福安慰ヲ得セシムルノ義ナ
リ

第四「而シテ禮アラシメヨ」ト此意ヤ右三条
ノ規則并ヒ行ハレ一般ノ人民勞力ヲ吝
マサルヲ以テ緊要ノ物器益々増殖シ物

貨交易益々容易ナルノ日ニ至ラハ人道
益々隆盛ニ趣キ凡百ノ事物皆正ヲ取り
邪ヲ避ケ遂ニ禮道ノ基本タル人間交際
ノ極美ニ達スルニ至ルヘシ

○二六 該緊要事件ニ付テハ千八百七十五年
月九日余カ大久保利通閣下ニ呈セシ書
翰ヲ見ヨ

○二九 該事件ハ尚七章ニ論述ス可シ
三十 千八百七十年報告書第一卷十八葉合衆
國第九ノ人口表ヲ照會セヨ

三二

今ヲ距ル九十一年前佛蘭西國ニ於テ其
 租税ヲ出スヘキ歳入所産ノ総價額拾億
 〇六千四百三拾九萬フランニシテ其
 納税ノ額壹億六千五百八拾九萬フラン
 クナリキ是レ則チ総所産歳入ノ一割五
 分五八ニ當ル

千八百六十年合衆國ニ於テ租税ヲ賦課
 セシ所ノ動産不動産ノ價額ハ百貳拾億
 八千四百六拾六萬〇〇〇五弗ナリ但シ
 其實價ハ百六拾壹億五千九百六拾壹萬

六千〇六拾八弗ナリ而ノ其價額上ニ賦
 課セラレタル租税ノ総額ハ州郡都邑等
 ニ課シタル諸税ヲ合セテ唯貳億八千〇
 五十九萬千五百貳拾壹弗ナリ而ノ右
 州郡都邑ヨリ出ス所ノ諸税ヲ平均ス
 ハ所有品貢納價額百分ノ二、三、三貳トナ
 ル之レヲ實價上ニ就テ算スレバ百分ノ
 一、七、三トナルナリ乃チ左ノ表ハ合衆國
 各州郡貢租ノ割合ニ就キ其計算ヲ精密
 ニ糾正セシモノナリ素ヨリ右租税ノ外

政府ニ收入スル輸出入税アリ又夕租税
 局ニ收入スル火酒、烟草及ヒ其他物産ノ
 諸税アリ然リト虽此是等ノ諸税ハ日本
 人民ノ貢納スル田租ノ如キ重税ト同日
 ノ論ニ非サルナリ何トナレ、是等ノ諸
 税ハ皆地味ニ関シテ貢納スルモノニ
 サレハナリ

合衆國各州郡動産不動産ノ槩算價額
 上ニテ積レル課税ノ賦割

州郡名	雜稅	國租及ヒ雜稅
イルリノイス	○四五一八	○六四九七
子ワダ	○三一五五	○五一三四
マスサチセツ	○三一五二	○五一三一
ミン子サタ	○三一五二	○五一三一
ブルカンサス	○三〇一四	○四九九三
アイオワ	○二九九〇	○四九六九
カンサス	○二九〇六	○四八八五
カリフォルニア	○二八九五	○四八七四
ルイシヤナ	○二七九〇	○四七六九

メーソン	○二六二一	○四六〇〇
ミッスーリー	○二五〇一	○四四八〇
ニューヨーク	○二四六八	○四四四七
アリゾナ	○二二二一	○四二〇〇
ニューハンプシャー	○二一八四	○四一六三
コロムビア	○二一三七	○四一一六
コロラド	○二一三〇	○四一〇九
ミシシッピ	○二一一〇	○四〇八九
オハイオ	○二〇一五	○三九九四
モンタナ	○一九九六	○三九七五

ミチガン	○一九九〇	○三九六九
アラバマ	○一九二四	○三九〇三
ペンシルワニヤ	○一八六八	○三八四七
子ブラスカ	○一八六七	○三八四六
オレゴン	○一八一五	○三七九四
ノルツカロリナ	○一八〇九	○三七八八
インデヤナ	○一六七七	○三六五六
ウヰスコンシン	○一六一八	○三五九七
マリラーランド	○一五六三	○三五六二
フロリダ	○一五五〇	○三五二九

ワシントン	〇一五四〇	〇三五一九
ソーツカーリナ	〇一五〇四	〇三四八三
ウエルモント	〇一五〇一	〇三四八〇
コンチクチキユット	〇一四二七	〇三四〇六
セントクキー	〇一三九七	〇三三七六
テン子ツシー	〇一三三〇	〇三三〇九
ユター	〇一二八七	〇三二六六
ウ#ルジニヤ	〇一二六四	〇三二四三
ウエスト、ウ#ルジニヤ	〇一二二〇	〇三一九九
ニュー、ゼルセー	〇一一八六	〇三一六五

ゼラルジヤ	〇一一五七	〇三一三六
ロードアイランド	〇〇八八九	〇二八六八
テキサス	〇〇七五三	〇二七三二
デラウェア	〇〇六四三	〇二六二二
ウァーミン	〇〇六二六	〇二六〇五
ダコタ	〇〇四七八	〇二四五七
ニューメキシコ	〇〇三三八	〇二五二七
イダホ	〇〇三二九	〇二三〇八

合衆國各州郡動産不動産ノ實價上ニテ
積レル課税ノ賦割

州郡名	雜税	國税及ヒ雜税
子ワタ	○二六四六	○三五七九
ルーイシヤナ	○二一八六	○三一一九
アルカンサス	○一八三四	○三七六七
コロラト	○一八〇九	○五七四二
ミシシヅピー	○一七八七	○二六二〇

ノーン	○一五三七	○二四七〇
子ブラスカ	○一四八八	○二四二一
アラバマ	○一四七六	○千四〇九
カンサス	○一四二二	○二三五五
ソーツカロリナ	○一三三〇	○二二
モンタナ	○一三二三	○二二五六
ニューハムプシヤイル	○一二八七	○二二二〇
アイオワ	○一二六一	○二一九四
コロムビヤ	○一二五三	○二一八八
カリフォルニヤ	○一二二六	○二一五九

マサチユセツツ	〇一五	〇一五六	〇二〇八九
ミン子ツター	〇一一	〇一一五六	〇二〇八九
フロリダ	〇一一	〇一一二七	〇二〇六〇
ウヰルジニヤ	〇一一	〇一一二五	〇二〇五八
オレゴン	〇一一	〇一一一七	〇二〇四〇
ミツスーリー	〇一〇	〇一〇八二	〇二〇一五
オハイオ	〇一〇	〇一〇五二	〇一九八五
ユター	〇一〇	〇一〇四五	〇一九七八
イルリノイス	〇一〇	〇一〇二九	〇一九六二
マリーランド	〇一〇	〇一〇二九	〇一九六二

ワシントン	〇〇九	〇〇九三	〇一九二六
セオルヂヤ	〇〇九	〇〇九八〇	〇一九一三
ケントクキー	〇〇九	〇〇九四八	〇一八八一
アリゾナ	〇〇九	〇〇九一〇	〇一八四三
ノルツカロリナ	〇〇九	〇〇九〇四	〇一八三六
ウヰストウヰルジニヤ	〇〇九	〇〇九〇一	〇一八〇四
インヂヤナー	〇〇八	〇〇八五一	〇一七八四
ニューゼルセー	〇〇七	〇〇七八八	〇一七二一
コン子クキユツト	〇〇七	〇〇七八二	〇一七一五
ウヰスコンシン	〇〇七	〇〇七六七	〇一七〇〇

ミチガン	〇〇七五二	〇一六八五
ニューヨーク	〇〇七四七	〇一六八〇
ロードアイランド	〇〇七三〇	〇一六六三
テキサス	〇〇七一〇	〇一六四三
テンネシス	〇〇六七九	〇一六一二
ウエルモント	〇〇六五八	〇一五九一
ペンシルワニヤ	〇〇六四四	〇一五七七
ウオーミン	〇〇四九二	〇一四二五
テラウエール	〇〇四三一	〇一三六三
ニューメキシコ	〇〇二九六	〇一二二九

イダホ	〇〇二六八	〇一二〇一
ダクター	〇〇二四七	〇一一八一

三十二 是等ノ如キ緊要ナル諸業ノ設立ニ関スルコトハ附録第一第二及ヒ其緒言ニ譲ル可シ

三十三 是ヨリ以下ハウンツアン氏カ編成セラル四國ノ地圖ヲ附スルカ為メ日本ノ土地測量ニ就テ須要ナル目的ハ字々同氏ノ筆記スル所ニ係ル

三十四 此方法ヲ日本ノ測量者ニ授ケハ六ヶ月

乃至八ヶ月ヲ出スシテ貫徹明瞭ナラシムルヲ得ヘシ

三五 一組ニシテ一日四平方里ヲ測量スル

ヲ得故ニ一大區トウシヤクヲ測量セシニ八九日ヲ

要ス可シ一大區ハ大約三十六平法里ナ

レハナリ

○ 三六

該業ヲシテ尚ホ是ヨリ神速ナラン

ハ、四組ニ代ヘテ八組ヲ派出セシムハ

シ

○ 三七

ウンツアソク氏ノ云ハル一組十二人

二十四人ニ増加シ之レヲ二部トナシ相

交代シテ從事ヤシメハ則テ其奏効極メ

テ神速ナルヲ得シ

番
語
記

大
雅
省

